



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

平成 2 2 年度

全 学 教 育 科 目

高年次履修のための手引き

高 等 教 育 機 構

目 次

I. 全学教育科目の高年次履修について -----	1
1. 全学教育と高年次履修 -----	1
2. 高年次履修対象科目 -----	1
3. 高年次教養科目の目的と目標 -----	1
4. 高年次履修の方法 -----	2
5. 科目の読替（平成17年度以前入学者対象） -----	2

II. 科目履修に関する一般的注意 -----	3
1. 科目履修の手続き -----	3
2. 履修登録から成績確認までの流れ -----	4
3. 総合選択履修方式 -----	4

III. 高年次履修対象科目授業時間割 -----	5
1. 高年次履修全学教育科目時間割 -----	5
2. 総合科目（留学生センター開講科目）時間割 -----	7

IV. 高年次履修対象科目授業内容 -----	8
1. 高年次教養科目 -----	8
1-a. 課題科目 -----	8
（平成17年度以前入学者：個別教養科目の読替科目）	
1-b. 主題科目 -----	10
（平成17年度以前入学者：個別教養科目，情報処理科目Ⅱの読替科目）	
(1) 箱崎地区開講科目 -----	10
(2) 病院地区開講科目 -----	13
(3) 伊都地区開講科目 -----	14
1-c. 社会連携科目 -----	15
2. 総合科目（留学生センター開講科目） -----	16
3. 言語文化自由選択科目 -----	19
（平成17年度以前入学者：言語文化科目Ⅱ，外国語コミュニケーション科目の読替科目）	
4. 健康・スポーツ科学科目 -----	26
（平成17年度以前入学者：健康・スポーツ科学科目Ⅱの読替科目）	
(1) 箱崎地区開講科目 -----	27
(2) 伊都地区開講科目 -----	27

V. 科目の読替について（平成17年度以前入学者対象） -----	28
-----------------------------------	----

【付録】平成22年度 全学教育学年暦 -----	31
平成22年度 全学教育授業日程 -----	32

I. 全学教育科目の高年次履修について

1. 全学教育と高年次履修

全学教育は、本学の総合大学としての特性を教育機能に生かし、優れた学部教育を実施するために設けられたものです。すなわち、それぞれの学部がその学部独自の専攻教育を行うのとは別に、本学が持っているさまざまな分野の専門研究者の教育能力を総合的に生かすことによって質の高い教養教育を実施し、それによって優れた人材を育成することを趣旨として設けられました。全学教育科目は、専攻教育との有機的連関のもとで、4年（6年）一貫の視点にたって編成されることになっています。そのため、全学教育科目は低年次だけでなく高年次においても履修することができるようになっています。

2. 高年次履修対象科目

3年次以降（高年次）に伊都・箱崎・病院・大橋地区で開講される高年次履修対象科目には次の科目があります。

1. 高年次教養科目
課題科目
主題科目
社会連携科目
2. 総合科目（留学生センター開講科目）
3. 言語文化自由選択科目
4. 健康・スポーツ科学科目

3. 高年次教養科目の目的と目標

学部専攻教育を主体とする高年次の修学課程において、以下のことを目的とした優れた人材の育成をおこなうために高年次教養科目を提供し、総合選択履修方式による履修の推進を図ります。

- (a) 現代社会の直面する課題を認識しその解決に貢献する社会性を修得する
- (b) 横断的な学問領域への理解を深め総合的な判断力をもつ人間性を修得する
- (c) 専門性に関連した周辺学問領域に関する理解を深め質の高い専門性を修得する

さまざまな分野の専門研究者の教育能力を総合的に生かすことによって、質の高い教養教育を実施し、それによって優れた人材を育成することを目的としています。

(イ) 課題科目

グローバル化が進む現代社会において直面する様々な課題にどのようなものがあり、それらを解決するためにどのような実践的取組が行われているかについての総合的な理解を修得することを目標としています。

課題科目Ⅰ（地域研究） / 課題科目Ⅱ（人間と社会） / 課題科目Ⅲ（先端科学技術）
課題科目Ⅳ（資源・エネルギー） / 課題科目Ⅴ（環境・生命）

(ロ) 主題科目

現代社会における人文科学・社会科学・自然科学分野の抱える諸問題について、テーマ毎に総合的な理解を修得することを目標としています。

文系主題科目Ⅰ（哲学と思想） / 文系主題科目Ⅱ（文学と芸術） / 文系主題科目Ⅲ（地域と文化）
文系主題科目Ⅳ（歴史と文化） / 文系主題科目Ⅴ（教育と心理） / 文系主題科目Ⅵ（政治と法）
文系主題科目Ⅶ（経済と社会）

理系主題科目Ⅰ（生物科学） / 理系主題科目Ⅱ（数学） / 理系主題科目Ⅲ（物理学）
理系主題科目Ⅳ（化学） / 理系主題科目Ⅴ（地球科学） / 理系主題科目Ⅵ（図形科学）
理系主題科目Ⅶ（情報科学） / 理系主題科目Ⅷ（健康科学）

(ハ) 社会連携科目

社会における市民としての社会連携活動の意義を理解し、社会への関心を高め自己の社会的位置づけを認識することにより、大学における修学活動の重要性を再認識するとともに、学問と社会との関わりについての知見を深め、学生であることの目的意識を確立させることを目標としています。

ボランティア活動Ⅰ / ボランティア活動Ⅱ / インターンシップⅠ / インターンシップⅡ

4. 高年次履修の方法

高年次における全学教育科目は、主に4頁の総合選択履修方式により履修します。

高年次履修対象科目の多くは、伊都・箱崎・病院・大橋地区にて火曜1時限に開講されますが、それ以外の時間・場所で適宜開講される場合もあります。開講される科目名・教員名・曜日時限・開講教室等については、別記の時間割等を参照してください。

5. 科目の読替（平成17年度以前入学者対象）

平成18年度から、全学教育科目のカリキュラムが改正されました。このため、平成18年度入学者を対象に開講される科目を修得することにより、平成17年度以前入学者の科目に読み替えられます。28頁以降の「V. 科目の読替について（平成17年度以前入学者対象）」に記載されている科目の読替一覧で、読替科目を確認の上、履修計画を立てるようにしてください。

なお、読替科目の中には、読み替え手続きが必要な科目もあります。手続きの詳細は、別途配布する「科目の読替について」を熟読の上、申請してください。

Ⅱ. 科目履修に関する一般的注意

皆さんが関わる授業時間割には、次のものがあります。

①「全学教育科目 授業時間割（その1）」	原則として伊都地区で開講される全学教育科目の授業時間割。
②「全学教育科目 授業時間割（その2）」	箱崎・病院・大橋及び伊都地区で開講される全学教育科目の授業時間割。
③「全学教育科目 授業時間割（その3）」	言語文化研究院箱崎分室で開講される全学教育科目の授業時間割。
④「〇〇学部 授業時間割」	各学部で開講される専攻教育科目の授業時間割。
⑤「言語文化自由選択科目 授業時間割」	言語文化研究院箱崎分室及び伊都地区で開講される全学向け（学部学生だけでなく大学院生及び教職員も受講対象としています。）の外国語の授業時間割です。なお、卒業の条件を満たすために単位を修得する場合は、上記③の授業時間割を使用しますので注意してください。

本書では、上記①②③に記載の全学教育科目の授業内容及び履修手続き等について説明します。

授業科目の選択にあたっては、入学時に配布された「平成〇〇年度全学（共通）教育科目履修要項」（〇〇は入学年度です）及びこの「平成22年度全学教育科目高年次履修のための手引き」を熟読し、次の事項に従ってください。

- 1) 聴講希望の学生が多数の場合は、授業担当教員の判断により教室収容定員を基準として聴講が制限されることがあります。
- 2) 同一学期の同じ曜日・時限に開講されている科目を複数履修することはできません。
- 3) 授業担当教員の受講許可を受け、かつ「学生用Webシステム」により履修登録された科目に対してのみ単位は認定されますので、履修登録手続きと確認を指定の期間に必ず行ってください。
 なお、各学部の専攻教育科目も全学教育と同じ「学生用Webシステム」から登録します。
 （但し、一部の学部・学科の専攻教育科目では事務室で登録を行う場合がありますので、所属学部・学科の窓口で確認してください。）

1. 科目履修の手続き

科目履修の手続きは、**授業開始日から起算して**次のとおり行います。

【第1週目】 受講の承認を受ける期間。

前期	4月12日(月)～	4月16日(金)
後期	10月1日(金)～	10月7日(木)

【第2週目】 第1週目で受講の承認を受けた授業科目を学務情報システム-学生用Webシステム-(以下、「学生用Webシステム」という)にて履修登録する期間。

前期	4月19日(月)～	4月23日(金)
後期	10月8日(金)～	10月14日(木)

※ 「学生用Webシステム」の利用方法については、別途配付される「学務情報システム利用の手引き」を参照してください。

【「学務情報システム利用の手引き」（マニュアル）は、ホームページからも参照することができます。】
 九州大学ホームページ > 学生の皆様 > 教務情報（履修登録等） > 履修登録・成績確認

※ 【第2週目】の登録手続きを怠ると、たとえ授業に出席し、試験を受け、十分に学習したという実績があっても、原則として単位は認定されません。

【第4週目】 第2週目に提出した履修科目の登録内容を「学生用Webシステム」で確認し、登録内容の追加・削除・修正等がある場合には、「学生用Webシステム」により訂正する期間。

確認期間は前もって掲示でお知らせします。登録内容に追加・修正・削除等がない場合には、手続きの必要はありません。

※ 登録内容を確認する際には、「曜日・時限」、「科目名」及び「教員名」を確実に確認してください。

【第6週目】 履修登録内容を「学生用Webシステム」で最終確認する期間。

第4週目に訂正を行った内容が正しく登録されていることを確認してください。この期間は、「学生用Webシステム」から、追加・修正・削除等を行うことは出来ません。追加・修正・削除等がある場合には、**全学教育課全学教育教務係**又は所属する学部の学生係に申し出てください。

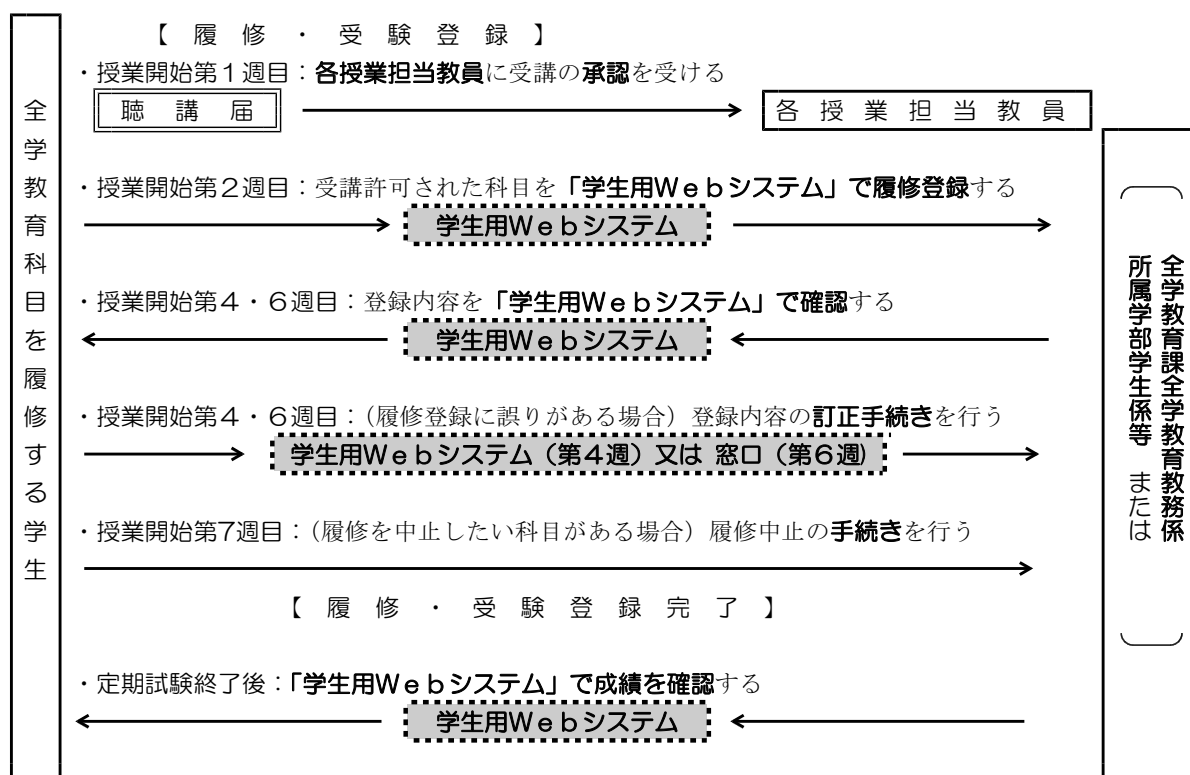
この最終確認期間以降の訂正は原則として認められませんので、注意してください。

【第7週目】 授業内容が想定していたものと異なっていたり、履修に必要な知識が不足している等の理由で履修を中止したい場合に、「履修中止」の申請を**全学教育課全学教育教務係**又は**所属学部の学生係等**で行う期間。
(※この「履修中止」制度を利用できるのは、GPAが適用される平成19年度以降の入学者です。)

履修中止が申請できる科目は、**選択（選択必修）科目**です。必修科目と集中講義科目は、申請できません。

これ以降の「履修中止」は認めません。ただし、修学途中で、病気や特別な事情等で修学が継続できない場合に対応するため、修学指導相談員等からの申請により、履修中止を認める制度があります。

2. 履修登録から成績確認までの流れ



注) 日時等は掲示によりお知らせしますので、伊都地区及び各学部の掲示板に注意してください。

3. 総合選択履修方式

すべての全学教育科目と他の学部・学科（所属する学部・学科においては一部の場合あり）で開講される専攻教育科目の中から科目を選択して履修することができる制度です。総合選択履修方式は、学問研究の急速な発展やその社会利用の多様な展開に対応して学生の個性ある多面的な能力を柔軟に発揮させることを目標として、九州大学の総合大学としての優れた教育能力を生かすものとして設けられています。総合選択履修方式に対応するため専攻教育科目は他の学部・学科の学生に対して原則として開放されます。

履修すべき単位数は、各学部（学科・コース等）ごとに定められていますので、各学部（学科・コース等）の履修細目をよく読んで履修してください。

1・2年次（低年次）に、箱崎・病院・大橋・伊都地区で開講される高年次履修対象科目を履修することはできません。

なお、3年次以降（高年次）に、伊都地区（センターゾーン）で開講される全学教育科目を卒業に必要な単位数を超過して履修した場合は、総合選択履修方式での単位とすることができます。

3年次以降（高年次）に複数の地区で履修する全学教育科目（再履修を含む）がある場合も、所定の期間に「学生用Webシステム」により履修登録を行ってください。

Ⅲ. 高年次履修対象科目授業時間割

1. 高年次履修全学教育科目時間割

【前期】

区分	曜日・時限	コード	授業科目名	副題	担当教員	地区	講義室
高年次教養科目	火曜・1限 (8:40～ 10:10)	01	文系主題科目Ⅳ (歴史と社会)	大正を読む	山口 輝臣	箱崎	文系) 204 講義室
		02	文系主題科目Ⅴ (教育と心理)	人間心理における個・集団・環境	佐々木 玲仁 他		文系) 203 講義室
		03	文系主題科目Ⅵ (政治と法)	現代正義論	酒匂 一郎		文系) 103 講義室
		04	文系主題科目Ⅶ (経済と社会)	情報技術と経済社会	篠崎 彰彦		文系) 104 講義室
		05	理系主題科目Ⅰ (生物科学)	生態系の構造と機能	上野 高敏 他		農) 4号館102 講義室
		06	理系主題科目Ⅲ (物理学)	自然科学概論	鴫田 昌之 他		理) 物理第3 講義室
		07	理系主題科目Ⅴ (地球科学)	海洋学概論	石橋 純一郎 他		理) 地惑3603室
		08	理系主題科目Ⅷ (健康科学)	体験で学ぶコミュニケーションと心の健康	入江 正洋 他		21世紀交流プラザ1 多目的ホール
		09	課題科目Ⅱ (人間と社会)	会社とは何か、起業するとは何かを学ぼう	淵田 吉男 他	箱崎 伊都 筑紫 大橋	旧工学部本館 第4 講義室 センター1号館 1308 講義室 総合理工学府E棟 101 講義室 芸工) 525 講義室
		10	理系主題科目Ⅱ (数学)	医療統計学	大喜 雅文	病院	病院地区総合研究棟 105号
		11	理系主題科目Ⅳ (化学)	新しい“くすり”への道	森元 聡 他		薬) 第3 講堂
		12	課題科目Ⅴ (環境・生命)	環境と生命	安河内 朗 他	大橋	芸工) 511 講義室
		13	課題科目Ⅲ (先端科学技術)	工学と倫理	中里 公哉		工) 第4 講義室
		14	課題科目Ⅳ (資源・エネルギー)	環境調和型社会の構築	橋爪 健一 他	伊都	工) 第3 講義室
		15	理系主題科目Ⅶ (情報科学)	脳情報科学概論	伊良皆 啓治		工) 第2 講義室

区分	曜日・時限	コード	授業科目名	種目等	担当教員	地区	講義室等
科学健康 科・目 スポ ーツ	火曜・1限 (8:40～ 10:10)	80	身体運動科学実習Ⅲ	バドミントン	橋本 公雄	箱崎	箱崎地区・体育施設
		81	身体運動科学実習Ⅳ				
		82	身体運動科学実習Ⅲ	ソフトボール 他	西村 秀樹	伊都	伊都地区・体育施設
		83	身体運動科学実習Ⅳ				

【後 期】

区分	曜日・時限	コード	授業科目名	副 題	担当教員	地区	講義室
高年次教養科目	火曜・1限 (8:40～ 10:10)	01	課題科目Ⅰ (地域研究)	グローバル化とアジア経済	深川 博史 他	箱崎	文系) 104 講義室
		02	文系主題科目Ⅱ (文学と芸術)	文学と芸術	吉井 亮雄		文系) 204 講義室
		03	文系主題科目Ⅴ (教育と心理)	社会生活における対人関係	山下 親子 他		文系) 202 講義室
		04	文系主題科目Ⅵ (政治と法)	法と政治の動態	李 弘杓		文系) 103 講義室
		05	文系主題科目Ⅶ (経済と社会)	市場と国家の経済思想史	関 源太郎		文系) 203 講義室
		06	理系主題科目Ⅳ (化学)	環境問題と自然科学	吉村 和久 他		理) 化学第2 講義室
		07	理系主題科目Ⅶ (情報科学)	情報科学の世界	池田 大輔 他	伊都 箱崎	ウエスト3号館 第4 講義室 情報基盤研究開発セン ター多目的講習室
		08	理系主題科目Ⅷ (健康科学)	応用健康学	丸山 徹 他	箱崎	理) 生物第2 講義室
		09	課題科目Ⅱ (人間と社会)	人間力, 国際力, 自立精神をつけよう	淵田 吉男 他	箱崎 伊都 筑紫 大橋	旧工学部本館 第4 講義室 センター1号館 1308 講義室 総合理工学府E棟 101 講義室 芸工) 525 講義室
	集中講義 ※1	—	課題科目Ⅱ (人間と社会)	研究と技術のマネジメント	谷川 徹 他	箱崎 伊都 大橋	(未定)
	火曜・1限 (8:40～ 10:10)	10	理系主題科目Ⅰ (生物科学)	細胞の複製と発生・分化	佐方 功幸 他	病院	病院地区総合研究棟 セミナー室105
		11	課題科目Ⅴ (環境・生命)	色彩計画	佐藤 優 他	大橋	芸工) 524 講義室
		12	課題科目Ⅳ (資源・エネルギー)	次世代の低炭素エネルギー	佐々木 一成 他	伊都	(未定)
		13	理系主題科目Ⅳ (化学)	化学英語	金田 隆 他		(未定)
		14	理系主題科目Ⅵ (図形科学)	図形情報処理入門	大月 彩香		工) 情報講義室2
集中講義 ※2	—	課題科目Ⅲ (先端科学技術)	工学と倫理	齋藤 了文		(未定)	

区分	曜日・時限	コード	授業科目名	種目等	担当教員	地区	講義室等
科 健 学 康 科 ・ 目 ス ポ ー ツ	火曜・1限 (8:40～ 10:10)	80	身体運動科学実習Ⅲ	サッカー	熊谷 秋三	箱崎	箱崎地区・体育施設
		81	身体運動科学実習Ⅳ				
		82	身体運動科学実習Ⅲ	総合型スポーツ	山本 教人	伊都	伊都地区・体育施設
		83	身体運動科学実習Ⅳ				

※1【集中講義】課題科目Ⅱ(副題:研究と技術のマネジメント)は箱崎,伊都,大橋地区(遠隔講義システムを利用)で開講を予定しています。日程・教室等については,後日揭示でお知らせします。

※2【集中講義】課題科目Ⅲ(副題:工学と倫理)は伊都地区で開講を予定しています。日程・教室等については,後日揭示でお知らせします。

2.総合科目（留学生センター開講科目）時間割

以下の科目は、**留学生センター**が外国人短期留学コースで開講する科目ですが、教室定員の範囲内で**全学教育科目**としての履修が認められています。履修する場合は、国際交流推進室（国際交流部棟内）で受講の許可を得たのち「**学生用Webシステム**」から全学教育科目として履修登録を行ってください。

授業の教室、時間割変更等については、各学部及び全学教育課教務係の掲示板により別途お知らせしますので、掲示に注意してください。

【前期】

◎ JTW (Japan in Today's World) 開講科目

次の科目は総合科目（平成17年度以前入学者は個別教養科目）として開放されます。

授業はすべて英語により行われ、原則としてTOEFL530点程度の英語力を履修の条件とします。

受講するには、「学生用Webシステム」にて履修登録する前に、国際交流推進室（国際交流部棟内）で配付される「JTW開放科目受講調査」に授業担当教員からの受講許可の署名（押印）を受けた後、この調書を国際交流推進室へ提出してください。

なお、外国人短期留学コース（通称：JTW）とは、主に本学と諸外国の大学間の学生交流協定に基づく交換留学生を受け入れている半年または1年間のコースです。

曜日・時限	コード	授業科目名	担当教員	対象学部等
火・2	01	世界的金融危機について	今井 亮一	全学部全学年
火・2	02	現代の日本文学	クロ ス	全学部全学年
火・3	01	日本と東アジア関係論	李 弘 杓	全学部全学年
水・2	01	近代日本の社会経済史2	今井 亮一	全学部全学年
水・3	01	日本における教養と教育	ポ ラ ッ ク	全学部全学年
水・3	02	現代日本政治入門	八谷 まち子	全学部全学年
木・3	01	現代日本と大衆文化	ナカ ム ラ	全学部全学年
金・2	01	日本の文化的発展	ポ ラ ッ ク	全学部全学年
金・3	01	日本語の輪郭	岡崎 智己	全学部全学年

◎ ATW (Asia in Today's World) 開講科目

次の科目は、留学生センターが外国人短期留学コースの一環として夏季集中で実施する九州大学サマーコースで開講される科目ですが、総合科目（平成17年度以前入学者は個別教養科目）として履修できます。

授業はすべて英語により行われ、原則としてTOEFL530点程度の英語力を履修の条件とします。

受講生の募集及び履修登録方法等の詳細については、後日掲示によりお知らせします。

曜日・時限	コード	授業科目名	担当教員	対象学部等
夏季集中	-	日本・アジアの食料経済	新開 章司	全学部全学年
夏季集中	-	現代の日本とアジア太平洋	テオ・シー・ハン	全学部全学年
夏季集中	-	判例にみる現代日本	ウァンオーベルハケ	全学部全学年
夏季集中	-	異文化関係論	ハルマソンハレス・アトネット	全学部全学年

【後期】

◎ JTW (Japan in Today's World) 開講科目

※後期の授業時間割は、後期開始前までに掲示によりお知らせします。

総合科目（平成17年度以前入学者は個別教養科目）として開放されます。

授業はすべて英語により行われ、原則としてTOEFL530点程度の英語力を履修の条件とします。

受講するには、「学生用Webシステム」にて履修登録する前に、国際交流推進室（国際交流部棟内）で配付される「JTW開放科目受講調査」に授業担当教員からの受講許可の署名（押印）を受けた後、この調書を国際交流推進室へ提出してください。

IV. 高年次履修対象科目授業内容

1. 高年次教養科目

1-a. 課題科目（2単位）（平成17年度以前入学者：個別教養科目の読替科目）

21世紀の人類が直面する現代社会が抱える諸課題について、この分野の最前線で活躍する講師から専門的かつ多様な視点に基づく問題提起を受けます。これによって問題点を正しく把握しその解決について議論することを主目的とし、課題の総合的な認識と理解を深めます。

【科目の読替（平成17年度以前入学者対象）】

個別教養科目は、課題科目を修得することにより読み替えられます。28頁～（V. 科目の読替について）を参照のうえ履修してください。

なお、主題科目の副題が科目名として成績に記載されます。ただし、既に修得した個別教養科目と同一名称の副題の科目は履修することができませんので、注意してください。

◎印はオーガナイザー

	授業科目名	担当教員	授 業 内 容	開講学期 (曜日時限) 地区	対象 学年	備 考 (テキスト)
	副 題					
課 題 科 目 I	グローバル化と アジア経済	◎深川博史 清水一史 堀井伸浩	グローバリゼーション下の東アジアについて、九州に近い韓国を中心に、アセアン及び中国の経済対応を概説する。地域ごとに経済トピックをとりあげて、3地域の経済対応の特徴を示す。例えば、韓国の農産物市場開放、中国のエネルギー需要への対応、アセアンの域内経済協力など。 担当教員3名はそれぞれ、韓国、アセアン、中国経済に精通した地域分析のスペシャリストであり、地域経済の問題点や発展の方向性を把握している。東アジア経済について、グローバリゼーションという大枠の視点を示しつつ、各地域の社会経済事情までを射程に入れた講義を予定している。	後期(火1) 箱崎地区	文・理 3年以上	
	会社とは何か、 起業するとは何 かを学ぼう	◎淵田吉男 岡本秀穂 松尾正人	九大生の90%が企業に就職するという現実を踏まえて、会社やビジネスの本質について概観することを目的とする。遠隔授業を用いて、日本およびシリコンバレーより多様な講師陣が、会社の形態の概説、新事業開発、研究開発、生産、マーケティング、販売という縦糸それを支える人事、経理、財務、総務などの横糸、そしてそれを統括するマネジメントの各立場から会社とは何かの経験も加えて論じていただく。また起業するとはどういうことか、ベンチャーキャピタルの役割、起業経験者による苦労と楽しさなどの話をさせていただく。	前期(火1) 箱崎地区 伊都地区 大橋地区 筑紫地区	文・理 3年以上	毎回の講義の後の 質疑応答への積極 的な参加を望む。 テキスト：各講義 のなかで参考図書 を紹介することが ある。
	人間力、国際 力、自立精神を つけよう	◎淵田吉男 岡本秀穂 松尾正人	起業家精神にあふれるカルフォルニア・シリコンバレーにある九大カルフォルニアオフィスからの遠隔授業で15回にわたって、人間性、国際性、自立性の強化の重要性につき講義する。この講義では日本やシリコンバレーで活躍しているビジネスマン、学者、研究者、地域リーダーなどの各講師の経験を踏まえて、その成功に至った自己実現のプロセスや将来ビジョンにつきお話しいただく。シリコンバレーのリーダーたちが何を考えているか、日本の外では何がどう動いているのか、学生である今何をしておかねばならないか、などにつき考えることを狙いとする。	後期(火1) 箱崎地区 伊都地区 大橋地区 筑紫地区	文・理 3年以上	毎回の講義の後の 質疑応答への積極 的な参加を望む。 テキスト：各講義 のなかで参考図書 を紹介することが ある。
課 題 科 目 II	研究と技術のマ ネジメント	谷川 徹 他	主として自然科学系の教育を受けかつ研究に従事する学生及び社会人に対し、実業界を含めた多様な経験と知識を持った講師陣が、研究マネジメント、技術マネジメントに関する講義を行う。大学（アカデミズム）の中では知り得ない広い視野、考え方に触れさせ、大学における研究の意義、目的、社会的位置づけ、方法を問い直し、また技術の活用方法、実用化のありかた等を広い視野から学ぶ機会を提供し、今後の研究や学問への取り組み意欲の向上と目標設定、学び方の指針を与える。また今後の進路選択への有効な示唆を与える。講義はいわゆる技術マネジメント（MOT）の総合的かつ基礎的講義であり、大学内外で活躍する複数の講師が、毎回講義形式にて専門分野の知見を教授する。	後期集中 箱崎地区 伊都地区 大橋地区 筑紫地区	文・理 3年以上	本講義は、可能な 限り講師と学生と のインタラクティブ な意見交換を目標 とするので積極的 な質問、意見開示 を期待する。 テキスト：各講義 のたびに講義資料 を提供しまた参考 図書を紹介する。

IV. 高年次履修対象科目授業内容

課題科目
(個別教養科目の読替科目)

	授業科目名		授 業 内 容	開講学期 (曜日時限) 地区	対象 学年	備 考 (テキスト)
		副題				
課題科目Ⅲ	工学と倫理	中里 公哉	技術が一般社会,特に公衆及び自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任など,技術者として社会に対する責任を自覚する能力を学習させ,国際的に通用する資質を身につけることを目的とする。したがって,具体的に授業は,技術者の倫理が問題にされる事例を多く挙げ,講師の実社会,特に航空界における経験をもとに説明を加えながら講義を進める。内容的には航空宇宙関係を中心とするが,その他の分野で参考となる技術者倫理,企業倫理についても学習させる。	前期(火1) 伊都地区	文・理 3年以上	
	工学と倫理	齋藤了文	工学分野においてもものづくりをおこなうためのエンジニアの倫理的責任について,事例に基づいて議論する。	後期集中 伊都地区	文・理 3年以上	
課題科目Ⅳ	環境調和型社会の構築	◎橋爪健一 青木俊之 塚雄策 高橋良彰 谷本潤 中島秀紀 波多 聰 浜本貴一 半田太郎 松永信博 田島博士 吉武克 藤田剛彦	エネルギーや物質を大量に消費することにより高度成長を遂げてきた現代社会が,地球環境保全やエネルギー資源問題で最大の難局に直面していることは現在広く認識されている。21世紀において,地球環境を破壊すること無く現代社会を維持して行くための科学技術や社会システムは如何なるものであるか。本講義ではこれらの問題についての現状把握と将来展望について解説する。講義は総合理工学研究院の教員がオムニバス形式で行う。	前期(火1) 伊都地区	文・理 3年以上	
	次世代の低炭素エネルギー	◎佐々木一成 伊藤平二 高崎雄策 谷本潤 田島博士 吉武剛 大瀧倫卓 橋爪健裕 大鳥重隆 岡来三	地球環境問題や低炭素社会実現が,世界最重要の共通課題となっている。21世紀においては,既存の大規模発電の高効率化と並んで,分散型,オンサイト型,携帯型,自然エネルギー利用などの地球環境適応型の革新的な低炭素エネルギー技術により,電気を高効率に生み出したり変換したり省エネルギーを可能にすることが不可欠である。本講義では,低炭素エネルギー技術を理解するための基礎科学と最先端の次世代技術開発の現状を,実際に研究に携わっている教員が概説し,将来の社会へのインパクトについて考察する。	後期(火1) 伊都地区	文・理 3年以上	テキスト:特になし(プリント配布で対応)
課題科目Ⅴ	環境と生命	◎安河内朗 榎原裕喜 綿茂重和 樋口克奎 石橋圭太	地球に生命が誕生して以来,進化を通して生物は環境に適応して生存し,種の維持をはかってきた。これがうまくいかなかったものは淘汰され,うまく適応できたものは選択され,結果として多様な生物種の発散につながってきた。本課題科目では,「環境と生命」の関わりを“適応”をキーワードとして,6名の環境適応のスペシャリストからなるオムニバス形式の授業を進めていく。授業では,まず「適応」とはなにか,その構造と生物学的意義について解説し,動物界における人類の位置づけや特徴について考察する。これに続いて,生存のための“感覚”や“情動・行動”,“生理機能”に関する適応やそのしくみについて,また環境側の適応要因として“温熱”や“光”を取り上げて具体的な適応のメカニズムを解説していく。	前期(火1) 大橋地区	文・理 3年以上	本授業を通して,“環境”とは,あるいは“人類”とは如何なるものか,また環境と生命との関係を進化・適応の時間軸をもって理解してほしい。特に授業全体を通して使用するテキストはない。各講師が準備するパワーポイント資料や文献資料を中心に授業を進める。
	色彩計画	◎佐藤 優 須長正治	色彩計画に関する知識は,設計にかかわるさまざまな分野の人々にとって欠かせない素養のひとつである。この授業では,色彩計画の理論から応用までをわかりやすく解説し,色彩計画の基礎を習得できるようにする。授業は,視覚芸術分野の佐藤優と,視覚学分野の須長正治が担当する。	後期(火1) 大橋地区	文・理 3年以上	

1-b. 主題科目（2単位）

（平成17年度以前入学者：個別教養科目，情報処理科目Ⅱの読替科目）

【平成17年度以前入学者の科目の読替について】

個別教養科目，基礎科学科目Ⅱ，情報処理科目Ⅱは，主題科目を修得することにより読み替えられます。28頁～（V. 科目の読替について）を参照のうえ履修してください。

なお，主題科目の副題が科目名として成績に記載されます。ただし，既に修得した個別教養科目，情報処理科目Ⅱと同一名称の副題の科目は履修することができませんので，注意してください。

（1）箱崎地区開講科目

【前期】

授業科目名	担当教員	授業内容	曜日時限	対象学年	備考 (テキスト)
文系主題科目Ⅳ	大正を読む	山口輝臣	大正といういささか印象の薄い時代について，その時代に書かれたもの，あるいはその時代について書かれたものを，まずは実際に読んでみることにする。具体的には手紙や日記，小説や論文，新聞や雑誌の記事，そしてときには絵—そういった素材を毎回1本程度とりあげる。参加者のうち担当となった者がそれについて報告を行い，その報告をもとに参加者全員で議論を行う。これにより，教科書を介すものとは異なる仕方でも過去を理解していく術を身に付けて欲しい。	火1	報告や発言など，主体的に参加することを強く求められる授業であり，その点を考慮して受講すること。
文系主題科目Ⅴ	人間心理における個・集団・環境	◎佐々木玲仁 野島一彦 古川久敬 南博文	人間は個として存在しながらも，そのありようは個人が属する集団や組織によって強く規定されている。また，人間の集団は単に個の集合としてあるだけではなく，集団・組織ならではの力動が多様に生じてくる。更に，これらの人間のあり方は，そのおかれている環境によっても大きく影響を受ける。このように，人間の心理を扱うときには，個か集団か，そしてそのおかれている環境はいかなるものかを総合的に考慮する必要がある。これらの側面について，各教員がその研究領域を背景として，組織・コミュニティ・グループなどをキーワードにリレー講義を行う。	火1	文・理 3年以上
文系主題科目Ⅵ	現代正義論	酒匂一郎	ジョン・ロールズの『正義論』(A Theory of Justice, 1971)は世界的に大きな反響と議論を呼び起こした。その基本的に福祉国家型リベラル・デモクラシーの正義論に対しては，様々な批判も提起された。本講義では，正義原理の根拠づけをめぐる価値相対主義の問題を検討した後，ロールズの正義論の概要を解説し，これに対する各種の批判的議論を検討する。なお，ロールズ晩年の著書『万民の法』(The Law of Peoples, 1999)をめぐる議論についても取り上げる予定である。	火1	テキスト：平井亮輔編『正義』（嵯峨野書房）。その他の参考図書は授業のなかで適宜指示する。
文系主題科目Ⅶ	情報技術と経済社会	篠崎彰彦	インターネットやパソコンなどの情報技術の発達は，私たちの経済社会にどのような影響を与えるのだろうか。また，それは，どうしてだろうか。変化の激しいビジネス界の表面的な出来事だけに目を奪われると，めまぐるしさに惑わされてしまうが，その根底に流れる経済原理の本質を理解すれば，目の前の現象に翻弄されることなく，経済社会の動きがみえてくる。この講義では，「情報」や「コミュニケーション」が経済活動で果たす役割とその重要性を学びながら，情報技術の進歩と急速な普及が企業行動や経済に及ぼす影響の本質を探っていく。	火1	試験は，最終講義日に行う予定である。経済学を専門としない人文・社会系および理工系の学生向けの授業。テキスト：篠崎彰彦著『日経文庫ベーシック IT 経済入門』（日本経済新聞社（1,000円+税））

IV. 高年次履修対象科目授業内容

主 題 科 目 (箱崎地区：前期)

(個別教養科目、情報処理科目Ⅱの
読替科目)

授業科目名	担当教員	授 業 内 容	曜日時限	対象 学年	備 考 (テキスト)
理系主題科目Ⅰ	生態系の構造と機能	上野高敏 他	生態系(エコシステム)を理解する上で必要な基礎事項を本講義では学びます。生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々ですが、具体例を見ながら、このことを理解していきます。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習します。そうすることで環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなるでしょう。	火 1	
理系主題科目Ⅲ	自然科学概論	◎鑄田昌之 寺西 高 大野正夫 八尋正信	20世紀は科学の時代といわれる。当該講義では、20世紀の科学の基礎とその発展を物理学的な立場から概観する。また21世紀における将来的な展望についても講義する。	火 1	興味を持って受講して下さい。全体で共通のテキストは指定しません。各担当教員が必要であれば指定します。
理系主題科目Ⅴ	海洋学概論	◎石橋純一郎 高橋孝三 市川 香 清川昌一	地球表面の2/3以上は海洋によって覆われており、地球の環境・歴史を考える上でその存在は重要である。しかし多くの人にとって海洋はそれほど身近にはないため、なかなかそのことを実感することが難しい。また海洋は極めて大きな存在で、物理・化学・生物・地学といった様々な手法を用いて実像の解明を行うことがその理解のためには必要である。本講義では、実際に海洋での研究を展開している4名の教員が分担して行う授業を通じて、地球の過去・現在・未来における海洋の役割を皆さんと一緒に考えていきたい。	火 1	文・理 3年以上
理系主題科目Ⅷ	体験で学ぶコミュニケーションと心の健康	◎入江正洋 福盛英明	近年、人間関係・コミュニケーションの問題で悩みを持つ人が増えてきたと言われます。心の健康の中心は、人間関係やコミュニケーションのあり方に関わる事柄が少なくありません。この講義は、ワークショップ形式(実技・体験学習形式)でコミュニケーション課題・グループ課題を実際に体験しながら、人との関わり方、コミュニケーションのあり方を改めて考えていくのが講義のねらいです。今後、就職活動を行うに当たって、または社会人・大学院生となっていくときには、人間関係・コミュニケーションのスキルは重要なものとなることが予想されますので、この機会に自分を見つめなおす機会となることを願っています。	火 1	実習ワークショップ型講義なので、みなさんの積極的な参加を望みます。前期のみの開講です。 テキスト：講義のはじめに紹介します。

【後期】

授業科目名	担当教員	授 業 内 容	曜日時限	対象 学年	備 考 (テキスト)
文系主題科目Ⅱ 文学と芸術	吉井亮雄	19世紀末から20世紀前半にかけてのフランス文学を中心に、同時代の絵画や音楽なども視野におさめながら、文学と芸術との関わりについて考える。	火 1	文・理 3年以上	
文系主題科目Ⅴ 社会生活における対人関係	◎山下親子 吉良安之 福留留美	本授業は、九州大学学生生活・修学相談室の常任相談員3名（山下・吉良・福留）がリレー式で講義を担当する。学生の皆さんはこれからの人生を生きていくなかで、さまざまな対人関係を体験する。この授業では、生涯にわたる社会生活のなかでの対人関係や、そこで生じやすい不適応、心身の不調について講述する。また履修学生同士で小グループを作りテーマについて話し合う機会も設ける。	火 1		資料等は必要に応じて授業内で配布する。
文系主題科目Ⅵ 法と政治の動態	李 弘杓	この講義では、21世紀の世界経済及び政治の中核として東アジア地域が台頭する可能性について考察することに始まり、東アジア諸国の国際社会における地位の確立と21世紀の国際政治および経済における役割について詳細に述べていく。これに並行して、地域主要国の2カ国関係の変遷を今日の問題と冷戦後の環境に焦点を置き広範囲に検証する。最後に地域協力の見通しでそれが地域の将来にどのような意味があるかを考察する。課程を通じて東アジアにおける日本の役割に特に重点が置かれることになる。	火 1		テキスト：防衛所防衛研究所（編）『東アジアの戦略概観 2009』（防衛所防衛研究所）
文系主題科目Ⅶ 市場と国家の経済思想史	関源太郎	現代社会では、改めて経済的・社会的格差が目につく。戦後の経済政策の行き詰まりが指摘され、これを打破するために取られてきた「市場」重視の考え方に再考を求める動きだと言ってもよい、こうした事態の進展を念頭に置きつつ、17世紀以来イギリスにおいて「市場」と「国家」についていかなる経済学的な思考が積み重ねられてきたかについて学ぶ。その対象は4世紀にも及ぶので、この歴史の回顧のなかから現代社会に特有な「市場」のあり方についても示唆を得る。	火 1		
理系主題科目Ⅳ 環境問題と自然科学	◎吉村和久 安中雅彦 桑野良一 酒井 健 下東康幸 横山拓史 百島則幸	我々の周りを見まわしてみると、実に多くの物質が存在します。それらは、天然のものばかりでなく、人工的に創り出されたものもたくさんあります。これらのほとんどは、我々の生活を豊かにするために大きく貢献しましたが、その反面、環境問題を引き起こしたのもや起こしつつあるものもあります。ここでは、科学の発展に伴って生じた環境問題に焦点をあて、環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決にむけたさまざまな取り組みを紹介します。	火 1		講義ごとに資料を配布する。

IV. 高年次履修対象科目授業内容

主題科目（箱崎地区：後期／病院地区：前期・後期）
（個別教養科目，情報処理科目Ⅱの読替科目）

授業科目名	担当教員	授業内容	曜日時限	対象学年	備考 (テキスト)	
						副題
理系主題科目Ⅶ	情報科学の世界	◎池田大輔 廣川佐千男 竹田正幸 鈴木英之進 瀧本英二 村上和彰 荒木啓郎	この科目では，情報科学の世界への本格的な入門として，データマイニング入門，理論計算機科学入門，システムLSI入門，ソフトウェア開発過程入門などのトピックを取り上げて紹介する。	火 1	文・理 3年以上	講義内容の理解のために，特に文科系受講者は十分な予習・復習が必要である。
理系主題科目Ⅷ	応用健康学	◎丸山 徹 上園慶子 眞崎義憲	現代の大学生の大半が人と会うのが億劫だと感じ，常に体がだるいと感じている。本講ではこれらの原因を探り，健康や生活リズムに関するセルフチェックを行い，自らの健康を自ら守るという姿勢の獲得を目指す。またグローバルが進む現代社会に生きる大学生は様々な感染症や食に関する問題を避けて通れず，アルコールハラスメントやアカデミックハラスメント，メタボリック症候群は大学生においても身近な問題である。本講ではこれらに関する最新の情報を元に，実習や体験を含めた双方向性の授業を行う。	火 1	3年以上	自身の健康管理や健康に関する社会醸成に感心の高い熱心な学生の受講を期待します。テキスト：特になし（原則的に毎回授業毎に資料を配布）

(2) 病院地区開講科目
【前期】

授業科目名	担当教員	授業内容	曜日時限	対象学年	備考 (テキスト)	
						副題
理系主題科目Ⅱ	医療統計学	大喜雅文	医療データの解析に必要な統計学の基礎とコンピュータを使った解析の実際について学ぶ。統計学の基礎としては，データの特徴量を求める記述統計と標本データから母集団の性質を求める推測統計（推定，検定）について解説する。種々の医療データを用いた演習により実践力を養う。	火 1	文・理 3年以上	テキスト：勝野恵子・井川俊彦著『Excelによるメディカル／コ・メディカル統計入門』（共立出版）
理系主題科目Ⅳ	新しい“くすり”への道	森元 聡	科学技術の著しい発展に伴って，様々な医薬品が開発されるようになり，難治性疾患も容易に完治できるようになってきた。しかしながら新薬の開発には依然として多くの困難が伴うのが現状である。本講義では，新しい医薬品の立案，開発，製造，市販に至るまでの一連のプロセスにおける基本的な戦略や方法論を概説する。また，優れたくすりの登場は，人類の生活の質を向上させたが，一方では副作用による健康被害などの重篤な問題も発生している。くすりを有効かつ安全に使用するため，その適正使用の重要性についても解説する。	火 1	3年以上	

【後期】

授業科目名	担当教員	授業内容	曜日時限	対象学年	備考 (テキスト)	
						副題
理系主題科目Ⅰ	細胞の複製と発生・分化	◎佐方功幸 野村一也	前半は一般的な細胞分裂や発生途上の細胞分裂についてエッセンスを講義する。後半はiPS細胞，癌遺伝子，糖鎖生物学などについて入門的解説をする。	火 1	文・理 3年以上	

（3）伊都地区開講科目 【前期】

授業科目名	副題	担当教員	授業内容	曜日時限	対象学年	備考 (テキスト)

【後期】

授業科目名	副題	担当教員	授業内容	曜日時限	対象学年	備考 (テキスト)
理系主題科目Ⅵ	図形情報処理入門	大月彩香	空間における諸問題を図的にとらえ研究する「図学」という学問があります。一般には、紙と筆記具に加えて三角定規とコンパスを用いた作図により作業が進められますが、この授業では、それらのメディアと道具をコンピュータと三次元CGアプリケーションにおきかえ、コンピュータが実現する仮想空間での立体や空間を図的に取り扱って図学問題を解いていきます。多くの分野に普及しつつある三次元CGやCADを理解し活用する上で、本授業で勉強したことが役立つでしょう。CGモデリングにおける空間操作の基礎知識としても有用です。	火1	3年以上	遅刻をしないこと。授業開始前に受講準備を済ませておくこと。

1-c. 社会連携科目〔平成17年度以前入学者は単位認定できません〕

社会における市民としての社会連携活動の意義を理解し、社会への関心を高め自己の社会的位置づけを認識することにより、大学における修学活動の重要性を再認識するとともに、学問と社会との関わりについての知見を深め、学生であることの目的意識を確立することを目標とします。

このために、教育的要素と教育的効果が認められる社会連携活動（インターンシップ、ボランティア活動、NPO法人等への参加など）を学外における学修活動の成果として単位を認定します。

ボランティア活動Ⅰ（1単位）

ボランティア活動Ⅱ（1単位）

ボランティア活動を学外における学修活動の成果として単位を認定します。

インターンシップⅠ（1単位）

インターンシップⅡ（1単位）

インターンシップを学外における学修活動の成果として単位を認定します。

（1）認定要件

1. 社会連携活動とは何かを理解するため、伊都地区で開講される「社会連携活動論」（総合科目）の単位を修得していること。または各学部等で開講されている社会連携活動に関する講義の単位を修得していること。
2. 受入先機関・組織が本学で認定されたものであること。
3. 活動に係る総従事時間が、2単位認定の場合は60時間以上、1単位認定の場合は30時間以上の活動であること。

（2）申請方法

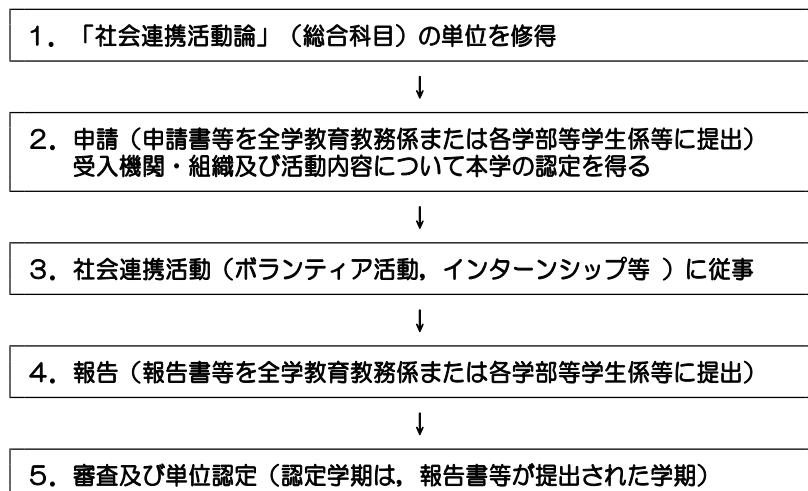
単位認定希望者は、申請書等を全学教育課全学教育教務係または各学部等学生係等へ提出し、事前に承認を得ること。

活動終了後は、速やかに報告書等を提出すること。

（3）審査方法

提出された申請書類・報告書等に基づき、書類審査並びに面接審査を行う。

（4）認定までの流れ



2. 総合科目（留学生センター開講科目）

JTW（Japan in Today's World）開講科目

以下の科目は留学生センターが外国人短期留学コースで開講する科目ですが、総合科目（平成17年度以前入学者は個別教養科目）としての履修が認められます。

受講するには、「学生用Webシステム」にて履修登録する前に、国際交流推進室（国際交流部棟内）で配付を受けた「JTW開放科目受講調査」に授業担当教員から受講許可の署名（押印）を受けた後、この調書を国際交流推進室へ提出してください。

なお、外国人短期留学コース（通称：JTW）とは、主に本学と諸外国の大学間の学生交流協定に基づく交換留学生を受け入れている半年または1年間のコースです。

※ 授業はすべて英語により行われます。

授業科目名	担当教員	授 業 内 容	開講学期（曜日時限）地区	対象学年	備 考 (テキスト)
世界的金融危機について	今井亮一	The course is designed to provide some introductory knowledge of Japanese economy. Students will learn the essence of historical and institutional background of Japanese Economy. In this course, we will focus on the structural issue of Japanese economy as a background of the 10 year depression since the crush of the bubble economy in 1990. Key words of this course: Corporate organization and governance, financial system and corporate groups, competition and business strategies, exchange rate regimes and international capital flows, productivity gap across industries, aging society, education and meritocracy, economic development and class stratification, and others.	前期（火2） 箱崎地区	文・理 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。
現代の日本文学	ク ロ ス	This course does not give an overview of Japanese literature. Instead it surveys short stories and several novels written since the mid-eighties. The course is suitable for students who are interested in examining how literature supports and subverts the idea of national culture. Thematically, attention is given to areas such as history, the family, the body, and sexuality. Our overall concern is with the question of change. This concern expands beyond consideration of aesthetics decisions between different kinds of stories and different kinds of presentation (Why is the text designed this way? Can we imagine a different form for this text?). We will hopefully be able to read a range of stories and novels as examples of support and critique of the idea of national identity (What should we do about this text?). Close readings of the texts will be our primary mode of advance.	前期（火2） 箱崎地区	文・理 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。
日本と東アジア関係論	李 弘 杓	This undergraduate level course offers an introduction to the most important aspects of Japan's role in East Asia, focusing on her evolving relations with main actors in the region such as the U.S., China, Russia and the two Koreas. The goal is to explain Japan's ever-changing place in the region. The approach is both conceptual and historical. In order to provide the answers to the questions of "what," "when" and "how" of Japan's evolving relations with the above countries, this course draws upon the best in the dominant traditions of international relations and international political economy by taking into account the international activities of both the Japanese state and its people with relevant historical developments in the background. This is not a course on current events, although contemporary issues and the post-Cold War environment will be seriously considered.	前期（火3） 箱崎地区	文・理 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。
近代日本の社会経済史2	今井亮一	The course is designed to provide some introductory knowledge of Japanese history. This is a continuation of the history course 1 taught in the previous semester. The course will cover the history of Japan's political and economic system since World War II to the present.	前期（水2） 箱崎地区	文・理 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。

IV. 高年次履修対象科目授業内容
総合科目（留学生向け開講科目）

授業科目名	担当教員	授 業 内 容	開講学期（曜日時限）地区	対象学年	備 考 （テキスト）
日本における教養と教育	ポラック	This course examines past and contemporary enculturation practices in Japan, focusing on character and identity formation and training from infancy through childhood to adolescence, in the contexts of home, school, and society at large. Readings, lectures, and class discussions address perennial and emergent development issues, and draw variously upon anthropological, psychological, sociological, and historical materials. We will consider research by Japanese and foreign scholars on such topics as mother-infant relations, family member roles and interactions, adjustment to formal schooling, peer culture effects, mental health issues, inculcation of morality in the classroom, approaches to learning and instructional strategies, gender and social class patterns, and the impact of media (television, video, manga, etc.) on personality, among others. Grading will be based on class participation, weekly reflections, and a short research paper. The goal is to deepen your appreciation of how Japanese become Japanese-how they reproduce and transform themselves-and of how this broad topic has been approached in method and theory.	前期（水3） 箱崎地区	文・理 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。
現代日本政治入門	八谷まち子	This course is designed to enable students with some literacy in Japanese to apply their language training by examining Japanese texts on current affairs and analyzing their wider relevance in society today. As such, it bridges the sometimes formidable gap between Japanese Studies courses conducted in English and regular faculty courses held in Japanese. It is also intended to foster a greater awareness of contemporary society within a long-term historical and cultural context. The course combines both Japanese and English skills. Classes take the form of reading and examining Japanese language materials available only in Japan relating to current topics in today's society. This is followed by discussion in English on their significance and meaning. Students will soon become aware of the fact that even a cursory exploration of topical events featured in Japanese newspapers often reveals the underlying importance of the social and historical context involved. This exercise is not simply to produce grammatically workable English translations, but is intended rather to enable students to develop analytical skills for using Japanese texts as resource materials for their own research.	前期（水3） 箱崎地区	文・理 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。
現代日本と大衆文化	ナカムラ	This course examines issues related to the analysis of gender in the Japanese social context such as role definition, employment and marriage trends, care of children and aged. Required student readings by Japanese and non-Japanese scholars offer varied perspectives on government policies, social issues, the construction of masculinity and femininity, and alternative lifestyle choices. We will see that the concept of gender changes over time (history) and place (culture/society), therefore the definition of gender shifts across cultural and historical boundaries.	前期（木3） 箱崎地区	文・理 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。
日本の文化的発展	ポラック	This course surveys changing patterns of Japanese material, social, and representational life from prehistoric to early modern times. Lectures, readings, and discussions applying a question and answer format will explore important evolutionary transformations in ecology, demographics, technology, settlement and urbanization, economy, kinship and family, governance, religion, and aesthetics, among other cultural areas, using mostly anthropological and historical resources. Transitions in adaptive strategy, or mode of subsistence, from foraging through horticulture and agriculture to early industrialism, are emphasized as key determinants in the evolutionary process, and will order our review of Japan's past. Grading will reflect your participation in discussion and performance on a take-home examination.	前期（金2） 箱崎地区	文・理 全学年	授業はすべて英語で行われる。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。
日本語の輪郭	岡崎智己	This course will look at some fundamental linguistic features of Japanese. In this semester discussion will cover topics related to Japanese verbs and particles, and cultural aspects of the language. A series of case studies on each topic will be conducted so as to examine the characteristic of Japanese in comparison with English and other languages where applicable. Evaluation is on the bases of class participation, one oral presentation (as in a group), quizzes and two short written assignments.	前期（金3） 箱崎地区	文・理 全学年	講義、討論、発表、小テストは全て英語で行われます。提出する課題レポートも英文となります。 原則としてTOEFL530点以上の英語力を履修条件とする。

A TW (Asia in Today's World) 開講科目

以下の科目は、留学生センターが外国人短期留学コースの一環として夏季集中で実施する九州大学サマーコースで開講する科目ですが、総合科目（平成17年度以前入学者は個別教養科目）としての履修が認められます。

受講生募集及び履修登録方法等の詳細については、後日、掲示によりお知らせします。

※ 授業はすべて英語により行われます。

授業科目名	担当教員	授 業 内 容	開講学期（曜日時限）地区	対象学年	備 考 (テキスト)
現代の日本とアジア太平洋	テオ シーベン	This course aims to provide an understanding of Japan's interest in and approaches to the Asia-Pacific by examining selected themes in Japan's interactions with the Asia-Pacific in modern times, from 1868 to present times. Such themes include imperialism and colonialism, nationalism and internationalism, war and peace, economic and cultural interactions, roles of state and non-governmental actors, and Japan's approaches to Asia-Pacific regionalism. This course will consist of two sections. Section I will examine Japan's engagements in the Asia-Pacific from 1868 to 1945 while Section II will analyze Japan's interests and roles in the Asia-Pacific from 1945 to present times. The focus is on the regions of East Asia and Southeast Asia. Apart from lectures, there will be video screening of documentaries for learning purposes.	前期 夏季集中講義 箱崎地区	文・理 全学年	受講者はTOEFL530点以上の英語力を有すること。
日本・アジアの食料経済	新開章司	Food is essential for all human beings, however, the impact and role of agriculture in the society vary from nation to nation. Some nations export large amount of food, and others including Japan heavily rely their diet on imports from other nations. This course focuses on food and agriculture in Japan and Asia-Pacific from the perspective of economics. Topics include: the food system and the agriculture in Japan, international trade, food consumption, food security, and food safety. Field trip to agricultural field is also scheduled.	前期 夏季集中講義 箱崎地区	文・理 全学年	受講者はTOEFL530点以上の英語力を有すること。
判例にみる現代日本	ヴァンオーベムレシ	The Meiji Restoration in 1868 marked the beginning of a rapid modernization motivated by the wish to revise the unequal treaties concluded with 11 European nations and the U.S. Modernization was also aiming at unifying the citizen of the various domains and becoming a strong nation. The Meiji leaders did realize from their contacts with foreign powers that the fundamental condition for becoming a respected independent nation was to establish a legal system similar to those in Europe. The course considers the relationship between the citizen and the state through major court cases such as those court cases on Sakamoto Ryoma (1868); on the Ono gumi Zaibatsu (1873); on Eto Shimpei (1875); on the attempted murder on the Russian Crown Prince (1891); on the Japan Sugar Corruption Scandal (1909); on the Big Treason Case (1911) and finally on the Teijin Bank Incident (1932). Through these court cases we will discuss various subjects related to law and society and we will connect the historical issues to issues relevant to today's Japanese society. This course will aim at offering a deeper understanding of the dynamics of law and society in modern Japan.	前期 夏季集中講義 箱崎地区	文・理 全学年	受講者はTOEFL530点以上の英語力を有すること。
異文化関係論	パルマン・ヘルス・アトネット	In the last ten years that many Asian universities have intensified their internationalization efforts, student mobility has become for many, their most important program. Admittedly, a few students from Europe and the United States have always been attracted to Asia, but in the mid-90s large groups of them started coming even to Asian countries which were not traditional destinations. As a result of these large student movements from West to East, Western students are increasingly sensitive and appreciative of the cultural diversity of Asia. More importantly, in the last ten years, perhaps aided by the youth popular culture coming largely from Japan and Korea, Asian students have become increasingly interested in studying in Asian universities. Consequently, a new breed of young Asians is slowly emerging from ignorance and stereotypes of their neighbors wrought largely from the colonial past of most their Asian countries. Like their Western counterparts, Asian students are not only discovering the diversity of Asian cultures but also discerning some common threads that cut across the diversity and understanding what makes them Asian. Drawn from the reflections exchange students bring home to their universities' International Program Offices, this course will offer a preliminary sketch of cultural differences and contexts of a few chosen Asian (including Japan) and Western countries. While analysis of these differences will draw from existing studies, the preliminary sketch is aimed at spurring class discussions that will allow participants to introduce and understand each other other's cultures, paving the way in the end, for a greater appreciation of their own.	前期 夏季集中講義 箱崎地区	文・理 全学年	受講者はTOEFL530点以上の英語力を有すること。

3. 言語文化自由選択科目

(平成17年度以前入学者：言語文化科目Ⅱ，外国語コミュニケーション科目の読替科目)

言語文化基礎科目を(原則として)履修し終わった人に対して、より高度な語学力を修得するための実践的、実用的な少人数の授業です。多様な学習目的に対応した授業科目をアラカルト方式で開講しますので、希望に応じて自由に選択することができます。また、初めて新しい外国語を履修する人に対する授業科目として「入門(又は速修)〇〇語」も用意されています。なお、この言語文化自由選択科目は学部生向けの授業です。定員に余裕がある場合に限り、大学院生、教職員にも開放します。

(1) 履修の仕方

言語文化自由選択科目では希望する授業科目を自由に選択して履修することができます。ただし、英語科目についてはクラス分けのためのプレースメントテストがあります。履修希望者は必ずこのプレースメントテストを受けなければなりません(過去3年以内のTOEIC、TOEFLのスコアをプレースメントテストの点数として使用することもできます)。プレースメントテストの日時等については、学部の学生係等および言語文化研究院箱崎分室で掲示、配布されている案内で確認してください。

履修した単位は総合選択履修方式の単位として認められますが、認められる単位数に関しては、学部・学科(コース)により異なりますので、「全学教育科目履修要項」で確認してください。

「言語文化自由選択科目」の単位は、「言語文化基礎科目」及び「言語文化科目Ⅰ」の単位としては認定されません。

(2) 平成17年度以前入学者の科目の読替

言語文化科目Ⅱ，外国語コミュニケーション科目は言語文化自由選択科目を修得することにより読み替えられます。28頁以降(V. 科目の読替について)を参照のうえ履修してください。

なお、言語文化自由選択科目から、言語文化科目Ⅱ，外国語コミュニケーション科目のいずれかに読み替えられる科目がありますので、該当科目を履修する場合は、科目読替の手続きが必要です。

(3) 授業内容

以下、それぞれの科目の開講に関する説明中の「週1回」は、特に、それ以上の明記がある場合を除き、第4学期以降の前期または後期において週1回開講されることを意味します。また、平成22年度に開講されない科目については、開講予定の年度が記されています。

【 英 語 】

英語会話Ⅰ(前・後期開講，週1回，2単位，箱崎分室・伊都地区)

語彙、文法力を向上させることにより、英語による意志疎通をスムーズに行う実践的英語コミュニケーション能力の養成をはかります。

英語会話Ⅱ(前・後期開講，週1回，2単位，箱崎分室・伊都地区)

政治・社会・経済・科学等の諸分野における専門的な内容について自由に会話ができるように英語コミュニケーション能力の養成をはかります。

英語プレゼンテーションⅠ(前・後期開講，週1回，2単位，箱崎分室・伊都地区)

英語による効果的なプレゼンテーションのあり方を理解し、パブリック・スピーキングの基礎を学びます。一般的な内容についてのスピーチ、ディスカッション、ディベートなどさまざまな場面のスピーキング能力の養成をはかります。

英語プレゼンテーションⅡ (後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室・伊都地区)

英語プレゼンテーションⅠの内容に関してさらに高度な訓練を行います。専門的な内容についてのスピーチ, ディスカッション, ディベートなどさまざまな場面のスピーキング能力の養成をはかります。

英語リスニングⅠ (前・後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

英語によるニュースを中心とした教材を用いて, 自然な速さの英語が理解できるような, 聴解力の養成をめざします。

英語リスニングⅡ (前・後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

政治・社会・経済・科学等の諸分野における専門的な内容についての講義や講演, 及びテレビドラマやドキュメンタリーや映画等を教材として用いて, 高度な聴解力の養成をめざします。

英語ライティングⅠ (前期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室・伊都地区)

英文パラグラフの書き方を踏まえた上で, 一般的な内容についての英文エッセイの構成と執筆法を学びます。

英語ライティングⅡ (前・後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室・伊都地区)

研究論文の構成と執筆法の基礎を学びます。研究論文を執筆するのに必要な論理的思考能力や論理的文章構成能力の養成をめざします。

英語リーディングⅠ (前・後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

英字新聞や英文雑誌などの記事を読みこなす能力の養成をめざします。時事英語を中心に読みますが, 人文科学・社会科学・自然科学の諸分野の記事を読むこともあります。

英語リーディングⅡ (前・後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

新聞や雑誌の記事だけでなく単行本も含んだ大量の英文を早く正確に読む能力の養成をめざします。

英語リーディングⅢ (前・後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

専門的な題材についての高度な内容の文献を中心に正確に読解する力の養成をめざします。

英語テスト・テイキング (前・後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室・伊都地区)

TOEFLやTOEICなどの国際的に通用する英語検定試験のスコアを上げるために必要な能力の養成をめざします。同じ学期に複数開講する場合は, 一方をTOEFL受験のためのクラス, 他方をTOEIC受験のためのクラスに分けることもあります。

【 担当教員 (平成22年度) 】

アムストロング, M. アシム-飯野, J.R. 稲葉 美由紀 大津 隆広 鈴木 隆子

* ターナー, P. * 津田 晶子 ホール, M. 山下 邦明

* 印は非常勤講師

【ドイツ語】

ドイツ語中級Ⅰ（週1回、2単位、箱崎分室）〔平成23年度開講予定〕

言語文化基礎科目で学んだドイツ語を継承・発展させ、さらに高度なドイツ語の総合的運用能力の涵養をめざします。ドイツ語検定3級に合格する力をつけることを目標とします。

ドイツ語中級Ⅱ（前期開講、週1回、2単位、箱崎分室）

言語文化基礎科目及びドイツ語中級Ⅰで学んだドイツ語を継承・発展させ、さらに高度なドイツ語の総合的運用能力の涵養をめざします。ドイツ語検定3級及び2級に合格する力をつけることを目標とします。ドイツ語中級Ⅰを履修していない人も受講できます。

ドイツ語オーラル演習Ⅰ（前期開講、週1回、2単位、箱崎分室）

特にドイツ語の聞き取り能力と発話能力の養成をめざして、基礎的な学習を行います。文字情報をとおとしてのドイツ語よりも音声機能としてのドイツ語の処理に重点を置きます。

ドイツ語オーラル演習Ⅱ（週1回、2単位、箱崎分室）〔平成23年度開講予定〕

ドイツ語オーラル演習Ⅰの内容をさらに高め、特にドイツ語の聞き取り能力と発話能力のさらなる向上をめざします。様々なテーマや状況を設定し、文字情報を通してのドイツ語よりも音声機能としてのドイツ語の処理に重点を置きます。

ドイツ語読解演習Ⅰ（前期開講、週1回、2単位、箱崎分室）

ドイツ語の文章を正確に読解し、日本語に翻訳するための理論を学び、それを様々な教材を用いて実践します。大学院を受験する際にドイツ語が必要な人に適した授業です。

ドイツ語読解演習Ⅱ（後期開講、週1回、2単位、箱崎分室）

ドイツ語読解セミナーⅠの内容をさらに高め、様々なジャンルの文章や高度な文献を読解する能力を養成します。ドイツ語で理解するために日本語への訳読は行わず、ドイツ語による要約やパラフレーズ、内容に関してドイツ語によるディスカッション等を行います。

ドイツ語表現演習Ⅰ（週1回、2単位、箱崎分室）〔平成23年度開講予定〕

ドイツ語のライティング能力の基礎的な力を養成します。ドイツ語で会話をするときも、実は私たちは即座に独作文をしているのだと考えることもできます。様々な構文や言い回しを修得してドイツ語による表現力を伸ばします。

ドイツ語表現演習Ⅱ（週1回、2単位、箱崎分室）〔平成23年度開講予定〕

ドイツ語表現演習Ⅰの内容をさらに高め、ドイツ語によるライティング能力を養成します。やや複雑な構文やドイツ語特有の言い回しを修得してドイツ語による表現力をさらに伸ばします。

ドイツ語発音演習（週1回、2単位、箱崎分室）〔平成23年度開講予定〕

日本人には難しいドイツ語の個々の発音や文レベルでの強弱アクセント、高低アクセントなどを含むドイツ語のリズムを学習し、正確に発音できるように実践的練習を行います。

ドイツ語リスニング演習Ⅰ（後期開講、週1回、2単位、箱崎分室）

ドイツ語の文章を聞き取る際に必要なポイントを学びながら、実践的な練習を行い、リスニング能力の向上をめざします。

ドイツ語リスニング演習Ⅱ（週1回、2単位、箱崎分室）〔平成23年度開講予定〕

ドイツ語リスニング演習Ⅰの内容をさらに高め、文章のスピード、内容、話す人などを多様化し、さまざまなシチュエーションのドイツ語に対応できるリスニング能力を養成します。

入門ドイツ語 (後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

第3外国語等として、初めてドイツ語を学習する人を対象にした科目です。発音および基本的な文法、やさしい文章を学ぶ初歩から始めますが、授業の密度・進度は、半年でドイツ語検定4級に合格するレベルに目標を置きます。

ドイツ語圏の言語と文化 (週1回, 2単位, 箱崎分室) [平成23年度開講予定]

ドイツはもとよりスイスやオーストリアなどのドイツ語が話されている地域の文化・歴史・社会などを多方面から学びます。様々なメディアから教材を選択します。

【 担当教員 (平成22年度) 】

カスヤン, A.S. 田 畑 義 之

【 フランス語 】

入門フランス語 (前・後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

入門者を対象とし、短期間でフランス語文法の基礎を修得することをめざします。フランス語再入門 (recyclage) としても積極的に活用してください。

フランス語作文コース (後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

フランス語の基礎を修得した学生を対象に、フランス語らしいフランス語を綴るためのポイントを手ほどきします。

フランス語読解コース (前期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

フランス語の基礎を修得した学生を対象に、フランス語をより正確に、より深く味読するためのコツを伝授します。大学院受験に第2外国語が必要な学生に最適です。

フランス語実用会話 (前・後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

フランス語をひととおり学んだ学生を対象に、実践的会話能力のさらなる向上をめざします。フランス人講師が担当します。

【 担当教員 (平成22年度) 】

阿 尾 安 泰 田 中 陽 子 羽 賀 賢 二 * ホスーシュ, L. 森 茂 太 郎

* 印は非常勤講師

【 中 国 語 】

入門中国語Ⅰ (前期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

中国語を学んだことがない人を対象とします。内容は中国語Ⅰに準じます。

入門中国語Ⅱ (後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

入門中国語Ⅰに続く科目です。内容は中国語Ⅱに準じます。

中国語口語Ⅰ (前期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

中国語のやや高度な会話能力の修得を目的とします。

IV. 高年次履修対象科目授業内容

言語文化自由選択科目

(言語文化科目Ⅱ，外国語コミュニケーション科目の読替科目)

中国語口語Ⅱ（週1回，2単位，箱崎分室）〔平成23年度開講予定〕

中国語口語Ⅰの基礎の上に，さらなる会話能力の向上をめざします。

中国語聞き取りⅠ（週1回，2単位，箱崎分室）〔平成23年度開講予定〕

中国語のやや高度な聞き取り能力の修得を目的とします。内容は原則として言語文化基礎科目の中国語LⅠの次の段階にあたります。

中国語聞き取りⅡ（後期開講，週1回，2単位，箱崎分室）

中国語聞き取りⅠの基礎の上に，聞き取り能力を発展させることをめざします。

【 担当教員（平成22年度） 】

中 里 見 敬 李 麗 君

【 ロシア語 】

入門ロシア語Ⅰ（前期開講，集中講義，2単位，箱崎分室）

ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業です。

ロシア語の文字の読み方・書き方からはじめて，文法の基礎を学びます。また，簡単な会話の表現を勉強し，音声教材を用いた聞き取り，発音練習をおこないます。

入門ロシア語Ⅱ（後期開講，集中講義，2単位，箱崎分室）

入門ロシア語Ⅰに引き続いて基本的な文法と会話表現を学びます。

【 担当教員（平成22年度） 】

佐 藤 正 則

【 韓 国 語 】

入門韓国語（前期開講，週1回，2単位，箱崎分室）

入門者を対象にして，短期間で韓国語の基礎をマスターすることをめざして開講された科目です。正確な発音と基本的な文法を学びながら，発信型外国語能力の獲得ができるように工夫します。

韓国の言語と文化（後期開講，週1回，2単位，箱崎分室）

福岡とは一衣帯水の地にある朝鮮半島に関して，言語の基本から歴史・文化・生活習慣に至るまで平易に解説します。この科目では，韓国語の総合的運用能力の向上をめざす学生諸君の積極的な参加を希望します。

【 担当教員（平成22年度） 】

* 朴 順 伊

* 印は非常勤講師

【スペイン語】

入門スペイン語 (前期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

スペイン語の初心者を対象にした科目です。スペイン語の文字, 発音から始めて文法の基礎をひとつおろし学習します。なお, この科目は第1あるいは第2外国語としてスペイン語以外の言語を選択した人しか受講できません。

総合スペイン語演習 (週1回, 2単位, 箱崎分室) [平成23年度開講予定]

スペイン語の総合能力 (聞く・話す・読む・書く能力) をスペイン語圏で製作された最新の教材 (DVD等) を用いて養成していきます。

表現スペイン語 (後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

スペイン語の文法知識をひとつおろし身につけた人を対象にした作文クラスです。特に, 日本人がスペイン語を使用する際に間違えやすい項目に焦点をあて, それらを正しく使いこなせるよう和文西訳/西文和訳の練習を行います。

時事スペイン語 (後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

スペイン語圏で発行された新聞・雑誌の精読を通して, スペイン語圏の現状及び日本とスペイン語圏の関係, さらに国際社会の動向がスペイン語圏においてどのように捉えられているかを考察していきます。

スペイン語圏の言語と文化 (前期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

スペイン語の総合能力 (聞く・話す・読む・書く能力) のうち, 特に「聞く」「読む」力の向上とスペイン語圏の社会・文化的多様性を理解することを目的とします。

【 担当教員 (平成22年度) 】

* 柿原 武史 * フジヨシ ミヨコ 山村 ひろみ

* 印は非常勤講師

【インドネシア語】

入門インドネシア語Ⅰ (前期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

インドネシア語を初めて学習する人を対象にした科目です。インドネシア語はインドネシア共和国の共通語として多くの人々に話されており, マレーシアで話されているマレーシア語と, シンガポールとブルネイで話されているマレー語とも非常によく似た言語ですので, それらの隣国でも通じます。表記は, アルファベットで, しかもローマ字読みすればだいたい通じるので発音も構造も比較的簡単です。

文字の発音から始め, 初歩的な文法や文章を使ってインドネシア語の日常会話や旅行の時役に立つ会話の修得を目標とします。授業は, 口頭の練習問題を中心に進めます。

入門インドネシア語Ⅱ (後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

入門インドネシア語Ⅰに引き続き, さらに一歩進んだインドネシア語の基本的な文法や構文とインドネシア人に出会ったらすぐに使える生きたインドネシア語の修得を目標とします。基本的な構文を覚えて, 学んだ語彙を使って, 様々な場面の会話を作って練習し, よりスムーズにインドネシア語でのコミュニケーションをはかるようにめざします。また, 会話の背景にあるインドネシアの文化や生活習慣にも随時触れていきたいと思えます。

【 担当教員 (平成22年度) 】

* 遠藤 ファビオラ

* 印は非常勤講師

IV. 高年次履修対象科目授業内容

言語文化自由選択科目

(言語文化科目Ⅱ, 外国語コミュニケーション科目の読替科目)

【イタリア語】

入門イタリア語Ⅰ (前期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

イタリア語を初めて学習する人を対象とします。文字, 発音, 文法の基礎を学習しながら, 実用的なイタリア語の修得を目的とします。

発音と表記, 定冠詞と不定冠詞, 名詞と形容詞の変化, “essere” と “avere” 動詞を使った色々な表現, 動詞(不規則動詞も含めて)の現在形, 関係代名詞, 副詞など。

入門イタリア語Ⅱ (後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

前期における学習内容の理解を深めながら, 中級レベルまでのイタリア語文法(過去形や進行形など)を学習します。単なる文章の暗記ではなく, 文法の基礎知識を応用し, 作文や会話を可能にすることが目的です。

【 担当教員 (平成22年度) 】

* マローネ, L.

* 印は非常勤講師

【オランダ語】

速修オランダ語Ⅰ (週1回, 2単位, 箱崎分室) [平成23年度開講予定]

オランダ語を初めて学習する人を対象にした科目です。オランダ語はオランダやベルギーなどで話されており, 英語やドイツ語によく似た言語です。初歩的な文法や簡単な文章の習得を目標とし, 対話形式の練習を中心に授業を進めます。日本ではあれだけ多くの人が英語やドイツ語を学習しているのに, オランダ語のできる人はごくわずかしきません。皆さんもオランダ語を学んでみませんか?

速修オランダ語Ⅱ (前期開講, 2単位, 箱崎分室)

「速修オランダ語Ⅰ」に引き続き, 基礎的な文法や平易な文章の習得を目標とし, 対話練習を通して, 日常的なコミュニケーション能力の向上をめざします。「速修オランダ語Ⅰ」を履修した人が同程度の学力のある人を対象にします。

【 担当教員 (平成22年度) 】

田 畑 義 之

【エスペラント】

速修エスペラントⅠ (前期開講, 集中講義, 2単位, 箱崎分室)

エスペラントを初めて学習する人を対象にした科目です。エスペラントは1887年にポーランドの眼科医ザメンホフ博士によって作られた人工国際語です。人工語なので不規則変化や例外がなく, 非常に習得しやすい言語です。ヨーロッパ言語の構造に興味がある人, 今まで学習した外国語がものにならなかったが, 何か日本語以外の言語が話せるようになりたい人, 英語とアメリカへの一極集中に不満な人にお勧めです。

速修エスペラントⅡ (後期開講, 週1回, 2単位, 箱崎分室)

「速修エスペラントⅠ」を履修した人が同程度の学力のある人を対象にします。「速修エスペラントⅠ」に引き続き, さらに進んだ文法学習, 会話練習の他にリスニングの訓練や, 読解演習を予定しています。ザメンホフの生涯, エスペラント原作文学, 言語帝国主義等についても随時触れていきます。

【 担当教員 (平成22年度) 】

田 畑 義 之

4. 健康・スポーツ科学科目 (平成17年度以前入学者：健康・スポーツ科学科目Ⅱの読替科目)

健康・スポーツ科学科目では、1年次後期から、「身体運動科学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「健康・スポーツ科学講義Ⅰ・Ⅱ」が開講されています。

健康・スポーツ科学科目のうち高年次生を対象に開講される科目は、下記のとおりです。

【科目の読替（平成17年度以前入学者対象）】

健康・スポーツ科学科目Ⅱは、健康・スポーツ科学科目を修得することにより読み替えられます。28頁～（V. 科目の読替について）を参照のうえ履修してください。

身体運動科学実習Ⅲ 【1単位】（前・後期開講，伊都地区・箱崎地区）

生涯にわたってスポーツを実践していくための基礎的能力や態度を養成することが本実習の目的です。技能の高度化をめざすことを通じて、健康づくりや生涯スポーツへの動機づけとその継続的实践を推進していくための方法を学習することになります。

身体運動科学実習Ⅳ 【1単位】（前・後期開講，伊都地区・箱崎地区）

生涯にわたってスポーツを実践していくための基礎的能力や態度を養成するとともに、さらには生涯学習社会においてスポーツの学習が有する意味、意義などについて理解を深めます。また、人々の健康づくりや生涯スポーツへの動機づけとその継続的実施を推進していくためのノウハウについても学びます。

【担当教員（平成22年度）】

熊谷秋三 西村秀樹 橋本公雄 山本教人

IV. 高年次履修対象科目授業内容
健康・スポーツ科学科目
(健康・スポーツ科学科目Ⅱの読替科目)

(1) 箱崎地区開講科目

授業科目名		担当教員	授 業 内 容	開講学期 (曜日時限)	対象 学年	備 考 (テキスト)
身体運動科学実習Ⅲ	バドミントン	橋本公雄	本授業は、バドミントンの技術習得を通して運動を楽しむ態度を養成するとともに人間関係を促進するコースです。初心者と経験者が受講しますので、経験者は初心者のサポートを行うとともに、実践的なゲームをとおしてより高度な技術習得を目指します。初心者は技術習得を通して、運動の楽しさや運動を生涯にわたって取り入れていく態度を身につけるとともに、受講生同士のコミュニケーションを図っていきます。	前 期 (火 1)	文・理 3年以上	運動のできる服装で参加すること。体育館シューズを履いてくること。
	サッカー	熊谷秋三	少しハードな運動をやってみたいというサッカーの初心者・経験者を対象に、ゲームを楽しみながら、体力の増進も取り入れた授業内容を展開する。サッカーの基礎技術および練習方法の修得、サッカーに必要な体力の獲得、ゲームの楽しみ方を主な授業内容とする。毎時間、基礎練習の後に、原則的にゲームを行って行く予定である。	後 期 (火 1)		
身体運動科学実習Ⅳ	バドミントン	橋本公雄	本授業は、バドミントンの技術習得を通して運動を楽しむ態度を養成するとともに人間関係を促進するコースです。初心者と経験者が受講しますので、経験者は初心者のサポートを行うとともに、実践的なゲームをとおしてより高度な技術習得を目指します。初心者は技術習得を通して、運動の楽しさや運動を生涯にわたって取り入れていく態度を身につけるとともに、受講生同士のコミュニケーションを図っていきます。	前 期 (火 1)		運動のできる服装で参加すること。体育館シューズを履いてくること。
	サッカー	熊谷秋三	少しハードな運動をやってみたいというサッカーの初心者・経験者を対象に、ゲームを楽しみながら、体力の増進も取り入れた授業内容を展開する。サッカーの基礎技術および練習方法の修得、サッカーに必要な体力の獲得、ゲームの楽しみ方を主な授業内容とする。毎時間、基礎練習の後に、原則的にゲームを行って行く予定である。	後 期 (火 1)		

(2) 伊都地区開講科目

授業科目名		担当教員	授 業 内 容	開講学期 (曜日時限)	対象 学年	備 考 (テキスト)
身体運動科学実習Ⅲ	ソフトボール 他	西村秀樹	ソフトボールを中心としておこないますが、使用できる施設の範囲内で、受講者の希望種目も取り入れます(例えば、バドミントン、卓球など)。ソフトボールは、チームワークやコミュニケーションスキルを発揮しないとうまくいきません。この競技特性を理解し、安全に楽しみながらプレイできるための基本的な技術の習得を通して、生涯のスポーツライフの基礎づくりを目指します。	前 期 (火 1)	文・理 3年以上	運動にふさわしい服装とシューズ。
	総合型スポーツ	山本教人	複数のスポーツ種目を体験することを目的にします。実施する種目については、受講学生の要望を聞いた上で決定します。「スポーツ」を苦手に行っている人、大歓迎です。	後 期 (火 1)		
身体運動科学実習Ⅳ	ソフトボール 他	西村秀樹	ソフトボールを中心としておこないますが、使用できる施設の範囲内で、受講者の希望種目も取り入れます(例えば、バドミントン、卓球など)。ソフトボールは、チームワークやコミュニケーションスキルを発揮しないとうまくいきません。この競技特性を理解し、安全に楽しみながらプレイできるための基本的な技術の習得を通して、生涯のスポーツライフの基礎づくりを目指します。	前 期 (火 1)		運動にふさわしい服装とシューズ。
	総合型スポーツ	山本教人	複数のスポーツ種目を体験することを目的にします。実施する種目については、受講学生の要望を聞いた上で決定します。「スポーツ」を苦手に行っている人、大歓迎です。	後 期 (火 1)		

V. 科目の読替について(平成17年度以前入学者対象)

平成18年度から全学教育科目のカリキュラムが改正されました。このため、平成18年度以降入学者を対象に開講される科目を修得することにより、平成17年度以前入学者の科目に読み替えられます。下記に記載されている科目の読替一覧で、読替科目を確認の上、履修計画を立てるようにしてください。

なお、読替科目の中には、読み替え手続きが必要な科目もあります。手続きの詳細は、別途配布する「科目の読替について」を熟読の上、申請してください。

個別教養科目

個別教養科目は、課題科目及び主題科目を修得することにより読み替えられます。

個別教養科目については、課題科目及び主題科目の副題が科目名として成績に記載されます。ただし、既に修得した個別教養科目と同一名称の副題の科目は履修することができませんので、注意してください。

区分	未修得科目	区 分	開講科目	副 題	単位数
個別教養科目		課 題 科 目	課題科目Ⅰ	グローバル化とアジア経済	2
			課題科目Ⅱ	会社とは何か、起業するとは何かを学ぼう	2
				人間力、国際力、自立精神をつけよう	2
				研究と技術のマネジメント	2
				工学と倫理	2
		課題科目Ⅳ	環境調和型社会の構築	2	
			次世代の低炭素エネルギー	2	
		課題科目Ⅴ	環境と生命	2	
			色彩計画	2	
		主 題 科 目	文系主題科目Ⅱ	文学と芸術	2
			文系主題科目Ⅳ	大正を読む	2
			文系主題科目Ⅴ	人間心理における個・集団・環境	2
				社会生活における対人関係	2
			文系主題科目Ⅵ	現代正義論	2
				法と政治の動態	2
			文系主題科目Ⅶ	情報技術と経済社会	2
				市場と国家の経済思想史	2
			理系主題科目Ⅰ	生態系の構造と機能	2
				細胞の複製と発生・分化	2
			理系主題科目Ⅱ	医療統計学	2
理系主題科目Ⅲ	自然科学概論		2		
理系主題科目Ⅳ	新しい“くすり”への道		2		
	環境問題と自然科学	2			
	化学英語	2			
理系主題科目Ⅴ	海洋学概論	2			
理系主題科目Ⅶ	脳情報科学概論	2			
	情報科学の世界	2			
理系主題科目Ⅷ	体験で学ぶコミュニケーションと心の健康	2			
	応用健康学	2			

※ 教育職員免許状を取得するために必要な個別教養科目「日本国憲法」(2)は、伊都地区で開講される文系コア科目「日本国憲法」(2)を履修することにより読み替えができます。(伊都地区で開講される科目の読替の詳細については、全学教育課全学教育教務係又は各学部学生係等で配付する「科目の読替について」を参照してください。)

言語文化科目Ⅱ

言語文化科目Ⅱは言語文化自由選択科目を修得することにより読み替えられます。

区分	未修得科目	単位数	区分	開講科目	単位数	備考		
言語文化科目Ⅱ	英語	英語会話Ⅰ	2	英語	英語会話Ⅰ	2	いずれか1科目しか履修できません。	
		英語会話Ⅱ	2		英語プレゼンテーションⅠ	2		
		英語リスニングⅠ	2		英語会話Ⅱ	2		
		英語リスニングⅡ	2		英語プレゼンテーションⅡ	2		
		英語エッセイ・ライティングⅠ	2		英語リスニングⅠ	2		
		英語エッセイ・ライティングⅡ	2		英語リスニングⅡ	2		
		時事英語講読	2		英語ライティングⅠ	2		
		自然科学英語講読 ※1	2		英語ライティングⅡ	2		
		人文科学英語講読 ※1	2		英語リーディングⅠ	2		
		英語文学講読 ※1	2		英語リーディングⅡ	2		
		自然科学英語講読 ※1	2		英語リーディングⅢ	2		
		人文科学英語講読 ※1	2		英語リーディングⅣ	2		
		英語文学講読 ※1	2		英語テスト・テイキング	2		
		実用英語演習Ⅰ ※2	2					
		実用英語演習Ⅱ ※2	2					
	ドイツ語	ドイツ語中級Ⅰ	2	ドイツ語	ドイツ語中級Ⅰ	2	いずれか1科目しか履修できません。	
		ドイツ語中級Ⅱ	2		ドイツ語発音演習	2		
		ドイツ語圏の言語と文化	2		ドイツ語中級Ⅱ	2		
		ドイツ語訳読法	2		ドイツ語リスニング演習Ⅰ	2		
		速修ドイツ語	2		ドイツ語圏の言語と文化	2		
時事ドイツ語		2	ドイツ語読解演習Ⅰ		2			
ドイツ語会話演習		2	ドイツ語読解演習Ⅱ		2			
			入門ドイツ語		2			
フランス語	入門フランス語	2	フランス語	入門フランス語	2	いずれか1科目しか履修できません。		
	フランス語作文コース	2		フランス語作文コース	2			
	フランス語読解コース	2		フランス語読解コース	2			
	フランス語実用会話	2		フランス語実用会話	2			
中国語	速修中国語Ⅰ	2	中国語	入門中国語Ⅰ	2	いずれか1科目しか履修できません。		
	速修中国語Ⅱ	2		入門中国語Ⅱ	2			
	中国語口語Ⅰ	2		中国語口語Ⅰ	2			
	中国語口語Ⅱ	2		中国語口語Ⅱ	2			
	中国語聴写Ⅰ	2		中国語聞き取りⅠ	2			
	中国語聴写Ⅱ	2		中国語聞き取りⅡ	2			
ロシア語	速修ロシア語Ⅰ	2	ロシア語	入門ロシア語Ⅰ	2	いずれか1科目しか履修できません。		
	速修ロシア語Ⅱ	2		入門ロシア語Ⅱ	2			
朝鮮語	速修朝鮮語	2	韓国語	入門韓国語	2	いずれか1科目しか履修できません。		
	朝鮮半島の言語と文化	2		韓国の言語と文化	2			
スペイン語	速修スペイン語	2	スペイン語	入門スペイン語	2	いずれか1科目しか履修できません。		
	スペイン語圏の言語と文化	2		スペイン語圏の言語と文化	2			
	表現スペイン語	2		表現スペイン語	2			
	時事スペイン語	2		時事スペイン語	2			
インドネシア語	速修インドネシア語Ⅰ	2	インドネシア語	入門インドネシア語Ⅰ	2	いずれか1科目しか履修できません。		
	速修インドネシア語Ⅱ	2		入門インドネシア語Ⅱ	2			
オランダ語	オランダ語基礎Ⅰ	2	オランダ語	速修オランダ語Ⅰ	2	いずれか1科目しか履修できません。		
	オランダ語基礎Ⅱ	2		速修オランダ語Ⅱ	2			
エスペラント	エスペラントⅠ	2	エスペラント	速修エスペラントⅠ	2	いずれか1科目しか履修できません。		
	エスペラントⅡ	2		速修エスペラントⅡ	2			
	速修エスペラント	2		速修エスペラントⅠ	2			

※1 言語文化科目Ⅱ「自然科学英語講読」、「人文科学英語講読」および「英語文学講読」は、言語文化自由選択科目の「英語リーディングⅡ」または「英語リーディングⅢ」を履修することによりいずれかに読み替えられます。いずれの科目に読み替えを希望するかを、事前に授業担当教員に申し出て承認を得てから、読み替えの手続きをしてください。

※2 言語文化科目Ⅱ「実用英語演習Ⅰ」および「実用英語演習Ⅱ」は、言語文化自由選択科目「英語テスト・テイキング」を履修することにより読み替えられます。原則として「実用英語演習Ⅰ」に読み替えますが、平成18年度までに「実用英語演習Ⅰ」を履修した者のみが、「実用英語演習Ⅱ」に読み替えることができます。

外国語コミュニケーション科目

外国語コミュニケーション科目は言語文化自由選択科目を修得することにより読み替えられます。

区分	未修得科目	単位数	区分	開講科目	単位数		
外国語コミュニケーション科目	英語	英語ディベートⅠ	2	言語文化自由選択科目	英語	英語プレゼンテーションⅠ	2
		英語ディベートⅡ	2			英語プレゼンテーションⅡ	2
		英語スピーチⅠ	2			英語会話Ⅰ	2
		英語スピーチⅡ	2			英語会話Ⅱ	2
		英語リスニング・セミナーⅠ	2			英語リスニングⅠ	2
		英語リスニング・セミナーⅡ	2			英語リスニングⅡ	2
		英語ライティング・セミナーⅠ	2			英語ライティングⅠ	2
		英語ライティング・セミナーⅡ	2			英語ライティングⅡ	2
		英語リーディング・セミナーⅠ	2			英語リーディングⅠ	2
		英語リーディング・セミナーⅡ	2			英語リーディングⅡ	2
	英語翻訳法	2	英語リーディングⅢ		2		
	ドイツ語	ドイツ語コミュニケーションⅠ	2		ドイツ語	ドイツ語中級Ⅰ	2
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	2			ドイツ語中級Ⅱ	2
		ドイツ語オーラル・セミナーⅠ	2			ドイツ語オーラル演習Ⅰ	2
		ドイツ語オーラル・セミナーⅡ	2			ドイツ語オーラル演習Ⅱ	2
		ドイツ語表現セミナーⅠ	2			ドイツ語表現演習Ⅰ	2
		ドイツ語表現セミナーⅡ	2			ドイツ語表現演習Ⅱ	2
		ドイツ語読解セミナーⅠ	2			ドイツ語読解演習Ⅰ	2
		ドイツ語読解セミナーⅡ	2			ドイツ語読解演習Ⅱ	2
		ドイツ語リスニング・セミナーⅠ	2			ドイツ語リスニング演習Ⅰ	2
ドイツ語リスニング・セミナーⅡ		2	ドイツ語リスニング演習Ⅱ	2			
ドイツ語発音セミナー	2	ドイツ語発音演習	2				
ドイツ語社会文化セミナー	2	ドイツ語圏の言語と文化	2				

健康・スポーツ科学科目Ⅱ

健康・スポーツ科学科目Ⅱは健康・スポーツ科学科目を修得することにより読み替えられます。

区分	未修得科目	単位数	区分	開講科目	単位数
健康・スポーツ科学科目Ⅱ	生涯スポーツ実習Ⅰ	1	健康・スポーツ科学科目	身体運動科学実習Ⅲ	1
	生涯スポーツ実習Ⅱ	1		身体運動科学実習Ⅳ	1

情報処理科目Ⅱ

情報処理科目Ⅱは主題科目を修得することにより読み替えられます。

情報処理科目Ⅱについては、主題科目の副題が、科目名として成績に記載されます。ただし、既に修得した情報処理科目Ⅱと同一名称の副題の科目は履修することができませんので、注意してください。

区分	未修得科目	単位数	区分	開講科目	副題	単位数
情報処理科目Ⅱ	図形情報処理入門	2	主題科目	理系主題科目Ⅵ	図形情報処理入門	2

平成22年度 全学教育 学年暦

行 事	期 日	備 考
前 期 開 始	4月1日(木)	
春 季 休 業	4月1日(木)～4月9日(金)	九州大学学部通則第6条第1項の規定による休業日
学 生 定 期 健 康 診 断	4月2日(金)～4月6日(火) 4月9日(金) 4月13日(火) 4月15日(木) 4月16日(金) 4月21日(水)	1年生(全員)の実施日 2年生(全員)の実施日
入 学 式	4月7日(水)	
新入生オリエンテーション	4月7日(水)～4月9日(金)	
前 期 授 業 開 始	4月12日(月)	
本 学 記 念 日	5月11日(火)	
前 期 授 業 終 了	7月30日(金)	
前 期 定 期 試 験	8月2日(月)～8月6日(金)	
前期定期試験に係る追試験等	8月9日(月)～8月13日(金)	
夏 季 休 業	8月14日(土)～9月30日(木)	九州大学学部通則第6条第1項の規定による休業日
前 期 終 了	9月30日(木)	
後 期 開 始	10月1日(金)	
後 期 授 業 開 始	10月1日(金)	
体 育 祭	10月9日(土)	
九 大 祭	11月19日(金), 22日(月)	九州大学学部通則第6条第2項の規定による休業日
冬 季 休 業	12月28日(火)～1月5日(水)	九州大学学部通則第6条第1項の規定による休業日
冬季休業後の授業開始	1月6日(木)	
大学入試センター試験	1月15日(土), 16日(日)	
後 期 授 業 終 了	2月3日(木)	
後 期 定 期 試 験	2月4日(金)～2月10日(木)	
後期定期試験に係る追試験等	2月14日(月)～2月18日(金)	
入学者選抜個別学力検査 (前期日程)	2月25日(金), 26日(土)	
入学者選抜個別学力検査 (後期日程)	3月12日(土)	
学 位 記 授 与 式	3月24日(木)	
後 期 終 了	3月31日(木)	

(注) 体育祭及び九大祭については、休業日を表示したもので、期間を示すものではない。

平成22年度【前期】 全学教育 授業日程

週	月	火	水	木	金	土	日	備 考		
								4.1(木)～4.9(金) 春季休業 4.2(金)～4.21(水) 健康診断 〔うち1年生該当日 4.2(金)～4.6(火) 2年生該当日 4.9(金)・4.13(火)・4.15(木) 4.16(金)・4.21(水)〕 4.7(水) 入学式 4.7(水)～9(金) 新入生オリエンテーション 4.10(土) 既修得単位認定試験 4.9(金) 大学院入学式		
1	4月	12	13	14	15	16	17	18	4.12(月) 前期授業開始	
2		19	20	21	22	23	24	25		
3		26	27	28	29	30	5月	1	2	
4		3	4	5	6	7	8	9		
5		10	11	12	13	14	15	16	5.11(火) 本学記念日 授業は行う	
6		17	18	19	20	21	22	23		
7		24	25	26	27	28	29	30		
8		31	6月	1	2	3	4	5	6	
9		7	8	9	10	11	12	13		
10		14	15	16	17	18	19	20		
11		21	22	23	24	25	26	27		
12		28	29	30	7月	1	2	3	4	
13		5	6	7	8	9	10	11		
14		12	13	14	15	16	17	18	7月16日(金) 月曜日の授業を行う	
15		19	20	21	22	23	24	25		
16		26	27	28	29	30	31	8月	1	7.30(金) 前期授業終了
17		2	3	4	5	6	7	8	8.2(月)～8.6(金) 前期定期試験	
18		9	10	11	12	13	14	15	8.9(月)～8.13(金) 追試験・再調査期間 8.14(土)～9.30(木) 夏季休業	
計		17	17	17	17	17				

※ カレンダー内の日付において、太字は祝日又は休業日を示す。

平成22年度【後期】 全学教育 授業日程

週	月	火	水	木	金	土	日	備 考
1					10月 1	2	3	10.1(金) 後期授業開始
2	4	5	6	7	8	9	10	10.9(土) 体育祭
3	11	12	13	14	15	16	17	
4	18	19	20	21	22	23	24	
5	25	26	27	28	29	30	31	
6	11月 1	2	3	4	5	6	7	
7	8	9	10	11	12	13	14	
8	15	16	17	18	19	20	21	11.19(金),22(月) 九大祭のため休業
9	22	23	24	25	26	27	28	11.25(木) 月曜日の授業を行う
10	29	30	12月 1	2	3	4	5	
11	6	7	8	9	10	11	12	
12	13	14	15	16	17	18	19	
13	20	21	22	23	24	25	26	
13	27	28	29	30	31	1月 1	2	12.28(火)~1.5(水) 冬季休業
14	3	4	5	6	7	8	9	
15	10	11	12	13	14	15	16	1.14(金) センター試験準備 授業は行わない
16	17	18	19	20	21	22	23	
17	24	25	26	27	28	29	30	
18	31	2月 1	2	3	4	5	6	2.3(木) 後期授業終了 2.4(金) ~2.10(木) 後期定期試験
19	7	8	9	10	11	12	13	
20	14	15	16	17	18	19	20	2.14(月) ~2.18(金) 追試験・再調査期間
21					25	26		2.25(金),26(土) 個別学力検査
計	17	17	17	17	17			

※ カレンダー内の日付において、太字は祝日又は休業日を示す。

学 部	学 科	ク ラ ス	学 生 番 号	氏 名